

C h e c k L i s t

# 大規模災害時に 高齢者施設で 行うことチェックリスト



災害救援者のピアサポートコミュニティの  
構築研究開発プロジェクト

高齢者施設チーム

大川一郎 神田尚・中村淳子・岡本多喜子  
[筑波大学] [筑波大学] [松蔭大学] [明治学院大学]



イ ン タ ビ ュ ー よ り

# 東日本大震災で 管理者がおこなった行動

- 避難訓練
- 緊急時の危機管理
- 備蓄などの物的準備
- ネットワークづくり

災害前

(事前の準備が災害時の対応の明暗を分けた)

被害が大きい

●職員・  
対して  
他管理職者に

- 職員の安否確認

- 施設の再建の決定

災害発生

●利用者に  
対して

- 避難
- 避難場所での居場所や安全の確保
- 衛生・医療体制の維持
- 施設の被害状況の確認およびその対応
- 夜間対応を含む施設内での安全の確保

災害直後  
1日から  
1週間

被害が小さい

●対して  
他管理職者に

- 職員の安否確認

- 避難場所の選択と移動
- 外部からの支援の受け入れ(自衛隊・消防・警察)
- 施設用品・備蓄の活用
- 情報の収集と管理

- 避難場所の選択と移動
- 自力で情報の収集
- 移動手段の確保
- 物品の調達
- 系列施設との連携

- 施設内での密なミーティング



## 災害発生時～数時間におこなうべき行動

- 利用者・職員の安全確保をおこなう。
- 安全な場所への1次避難をおこなう（とにかく高いところ、遠くへ逃げること。車いす、足の不自由な方、寝たきりの方への支援をおこなう）。
- 利用者・職員の安否確認をおこなう。
- 1次避難した場所が安全・安心かどうかの確認をおこなう。
- 1次避難場所が安全・安心でない場合は、2次避難場所を選定し、再避難する。
- 避難場所での居場所確保や安全確保をおこなう。
- 体調不良者の確認をおこなう。
- 医療機関との連絡をおこなう。
- 衛生状況（汚物処理・粉塵・ウィルス・感染症などへの対応）の確保・維持をおこなう。
- 持ち出した衣料品の確認をおこなう。
- 痰の吸引や胃瘻など、身体状況に応じた対応の確認をする。
- ライフラインの利用可能状況の調査をおこなう。
- トイレが利用できるかの確認をおこなう（車いすで利用できるか？ 使えない場合の対策）
- 食料の在庫状況の確認をおこなう。
- ベッド・マットレス・布団の確保をおこなう。

- 職員の雇用・生活の確保
- 被災した職員の通勤の足の確保
- 介護職員の負担軽減

- 避難場所・入居先の選択と確保
- 利用者の所持金などの返還

- 被害の大きさの程度で、施設管理者のとった行動は異なっています。
- 施設管理者は、まず利用者・職員の「安全・安心」を守るために行動しました。
- そして次におこなったのが利用者・職員の「生活の再建」です。

**多様な対象に  
対して**

**1週間から  
1か月**

- 利用者対応を職員に委ねる
- 外部からの支援の受け入れ

**1か月から  
数か月**

- 他施設の利用者等の受け入れ
- 職員への処遇や配置を見直す
- 役所や外部団体との交渉
- 被災の記録

**数か月  
から1年**

- 業務正常化に向けての行動
- 職員とのコミュニケーションを図る

**現在**

- 避難訓練
- 緊急時の危機管理
- 備蓄などの物的準備
- ネットワークづくり
- 今後への備え
- 人の確保と人材育成
- 地域との交流

- 施設の体制の立て直し
- 職員の雇用・生活の確保
- 職員への声かけ



## 利用者の安全が確保できたらおこなうべき行動

<input type="checkbox"/>	利用者家族との連絡をおこなう。
<input type="checkbox"/>	施設書類の確保をおこなう
<input type="checkbox"/>	職員体制の見直しをおこなう。
<input type="checkbox"/>	職員の雇用・生活の確保の検討をおこなう。
<input type="checkbox"/>	地域ネットワークの活用をおこなう。
<input type="checkbox"/>	外部支援の受け入れをおこなう。
<input type="checkbox"/>	被害が大きく再建の見込みがない場合は、利用者の所持金などの返還をおこなう。
<input type="checkbox"/>	被害が小さく余力がある場合は、他の被災者の受け入れをおこなう。
<input type="checkbox"/>	再建のための検討をおこなう。
<input type="checkbox"/>	被災の記録をおこなう。





## 事前準備編

何をとっても、まずはここを準備しましょう

	準備	具体的な内容
<input type="checkbox"/>	避難訓練の実施で地域の特性を考慮しているか？	火災・地震・津波・水害・山崩れ・交通網麻痺
<input type="checkbox"/>	避難場所が確保できているか？	建物の中で安全な場所は？ 避難所の複数選定
<input type="checkbox"/>	避難行動要支援者名簿の作成	どのような支援が必要か？ 誰が担当するか？
<input type="checkbox"/>	緊急連絡先の確認はできているか？	病院・消防・警察・行政担当
<input type="checkbox"/>	避難経路の確保ができているか？	徒歩か？ 車いすか？ 自動車か？
<input type="checkbox"/>	緊急時の指示系統が確立されているか？	施設長クラスが不在の場合でも、命令系統が整っているか？
<input type="checkbox"/>	停電を想定した対応ができているか？	医療機器、電灯、パソコン、エアコン、調理器具、温水器などが使用できない場合の想定。自家発電機の設置とメンテナンス。ガスコンロ、ホワイトボード、懐中電灯等のアナログ機器の用意
<input type="checkbox"/>	連絡手段が確保されているか？	固定電話、携帯電話が使えない場合を想定して対応しているか？
<input type="checkbox"/>	食料・備品などの保管状況が確認できるか？	必要な場所に必要なものがあるか？ 賞味期限は？
<input type="checkbox"/>	地域とのネットワークづくりはできているか？	地域住民に施設を知ってもらう。自治会長、自主防災組織に避難支援の協力要請。地元企業の普段からの利用（食料品店、ガソリンスタンド）など
<input type="checkbox"/>	他施設との協定をおこなっているか？	地元だけでなく、遠隔地との災害協定も重要である



これらのチェックリストを参考に、各施設に合ったマニュアル作りが望されます。

リーフレットに基づく研修の申し込みも、個別に受け付けております。

下記までご連絡ください。

**大川一郎**

[高齢者施設チーム代表／筑波大学]

iot21005@human.tsukuba.ac.jp